

DREAM TIMES 第 X 号です。Did you enjoy your holidays?

いよいよ 2 学期のスタートです。楽しく充実した夏休みを過ごしたと思います。皆さんの夏についても教えてください。特別課題「映画鑑賞報告書」も楽しみにしています。今回も数名分を英語教室に掲示します。

昨日、課題テスト & 3 年学力診断テストが行われましたが手応えはいかがでしたか。3 年生の生活ノートには気合いを入れて試験を迎え撃つようなコメントも数々あり頼もしく感じました。1, 2 年生の中にも夏休みの勉強の成果が表れている人がいました。中には 30 点以上スコアアップしている人もいました。

2 学期は教育キャンプ、修学旅行、文化祭など行事も盛りだくさんです。英語劇も楽しみです。ひとつひとつ丁寧に取り組みながら味わっていきましょう。

洋画に挑戦！お勧め映画！

チョコレートの川に浮かぶ砂糖菓子の船。甘いお菓子が好きな人にはたまらない光景でしょう。そんな華やかで独特の世界観を満喫できる作品。



『チャーリーとチョコレート工場』

原題：Charlie and the Chocolate Factory

制作年/国：2005 年/アメリカ

ストーリー：主人公はチョコレートが大好きなチャーリー少年。貧しくも幸せな生活を送る彼の家の近くには、世界で大人気のチョコレートを生産するウォンカの工場があった。ある日、ウォンカはチョコレート工場の見学ができる 5 枚のゴールデンチケットをチョコレートに同封したと宣言する。そしてチャーリーは見事にチケットを引き当てるのだが…。

シンプル英語表現に挑戦！

今月の『シンプル英語表現』は…

“I can't stand the heat.”

表現の意味：「暑くてたまりません。」

場面 & 解説：この夏も 35℃ 以上の猛暑日が何度かありました。寝苦しい熱帯夜はつらいものです。そんなときに口から出るのがこの表現です。「stand」は「我慢する」の意味。「I can't stand～」で「～に耐えられない」となります。

“I can't stand the smell (the sound).”

「その匂い(その音)が我慢できません。」

米国の第 33 代大統領トルーマンがよく言っていたと言われる言葉。これはどういう意味の言葉なんでしょうか。

“If you can't stand the heat, get out of the kitchen.”

〔参考：英辞郎 on the WEB Pro〕

〇〇先生のコラム



親友の結婚式に出席してきました。今回は、アメリカの結婚式について紹介します。

In June, I went to America. My friends were getting married, so I went to their wedding. In Japan, many weddings start at shrines. Sometimes people wear special kimono for their wedding. In America, the bride wears a white dress, and the groom wears a black suit or a tuxedo. The wedding is held in a church. Many friends and family come to the wedding and celebrate with the couple.

The best friends of the bride and groom join them at the front of the church. They are called "bridesmaids" and "groomsmen." I was a bridesmaid at my friend's wedding. I wore a special dress and had flowers with me. The wedding was very nice, and my friend was beautiful in her dress. (次号につづく)

聞いてくださいラオスの話、まずは「知ること」から

この夏、私は幸運にもラオスで国際理解教育のための研修をする機会を得ました。九州各地の先生方と一緒にラオスの首都ビエンチャンを中心にいくつかの施設や団体を訪問しました。

20 年ほど前に私が初めてラオスを訪問した頃、当時のガイドブックには「東南アジア最後の秘境」と書かれていました。それが今では世界遺産を 2 つ有する、成長真ただ中の元気な国となっています。

毎日が新しい発見の連続で、学校に持ち帰って皆さんに伝えたいと思うことがたくさんありました。

しかし、知れば何でも楽しいというわけでもありませんでした。過剰な投資で各地の土地が急激に値上がりしていること、開発によって古き良きラオスの風景が失われつつあること、教育が不十分で助かるべき命が多く失われていることなど、心が痛むような話も少なくありませんでした。

皆さんは日本でとても恵まれた環境(当たり前すぎて恵まれていると感じないかもしれませんが)のもとで教育を受けていますが、同じアジアの国であるラオスの教育環境はとても厳しい状況です。

特に地方での教員の確保が非常に難しく、教員の質や能力も十分でなかったり、さらに教科書や教具も不足していたりと、課題山積の状態なのです。

算数の教科書では、面積を求める学習が掛け算の学習より先になされるなど、教科書自体の問題もあるということでした。問題の解決のために、日本は、ラオスの教員養成校における教員養成や教科書の開発にも協力しています。

このような形で日本が国際協力をしていることは、日本人には意外と知られていません。

また、私にとって最も衝撃的だったことは、ラオスが世界で最も空爆された国だということです。

ベトナム戦争においてアメリカはラオスを徹底的に空爆しました。北ベトナムから南ベトナム方面に伸びるホーチミンルートと呼ばれる輸送路のほとんどがラオスの山間部を通過していたことで、ここが集中して爆撃されました。

今でも地中に埋まったままの不発弾が多くあり、各国の国際協力のもとにそれらの処理作業が進められているところですが、しかし、この処理の完了にはまだ 100 年以上かかると言われています。

If you guess right on a quiz, you win a nice prize.

QUIZ & PRIZE

【今回のクイズ】難易度 ★★★★★ (締切9/20)

異業種の仕事を兼業することを日本語では「二足のわらじをはく」と言います。これを英語で表現するとき、空欄に入る語は何か。答え：wear two ()

【今回の記念品】

今回のアイテムは台湾で購入した「恋 & 健康のお守り」です。正解者より抽選で 2 名様に♪



★解った人は学年、組、名前と答えを書いて専用ポストへ♪
★紙は何でも OK。備え付け投稿専用紙は使わないで下さい。



COPE Visitor Center に展示されているクラスター爆弾の模型。ラオスが受けた空爆の回数は約 58 万回。爆弾の総量は 200 万トンを超えた。

日本の国内にも国外にも解決すべき問題は常に存在します。簡単には解決しません。しかし、どんなことも「知ること」から始まるのではないかと思います。知ったら、人は考えます。考えた人々の中から、解決に向けて動き出す人が出てくる。多くの人が考え始めたら問題の糸口も見えてきます。

問題解決へのアプローチは私たちの身近に起きているトラブルのそれと根本的には大きく違わないのではないのでしょうか。ただ、規模が大きくなると問題がより多くの問題を生み、より複雑になり、本質が見えにくくなる傾向はあると思います。

私は、学級・学年・学校における包摂(支え合い)を意識した小さな取組も、いつかどこかで自国や他国の問題解決の一助につながると信じています。

今、学校でできることは、「自国や外国の人々や文化に興味を持ってより詳しく知ろうとする姿勢を育むこと」や「相手の立場や考えも尊重する姿勢の大切さを伝えあうこと」だと感じます。

蛇行しながらも悠然と流れゆくメコン川を眺めながら、中学時代に国語の授業で読んだ魯迅の「故郷」を思い出しました。

「思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

できれば前の方を歩く人になりたいです。

Travel Photo Gallery 旅の写真館 ●ラオスを走る京都市バス(ビエンチャン)



地域住民へのアンケートによれば、公共交通が渋滞の削減に有効で環境に良いということを知っていた。また、ほぼ全員が今後バスを使いたいと回答したという。

ラオスの首都ビエンチャンに初めて足を踏み入れた。移動中、どこか懐かしいデザインのバスが目に入った。若草色に緑のライン。そう、京都でお世話になった市バスだ。最初はデザインを真似たのかと思ったがビエンチャンのバス会社を見学してその謎が解けた。このバスは、まさに京都の市バスそのもので京都市がビエンチャンに贈ったものだという。前面プレートには「From Kyoto, Japan」と記されている。JICA(国際協力機構)は発展途上国に対する支援の一環として、同会社のバス網の改善を支援している。運転手の待遇を改善したり、路線を整理したり、時刻表を作ったりしながら市民にバスの良さをアピールすることで徐々に乗客数を増やしている。異国の地でこのようなエキサイティングなプロジェクトが動いていたことを知って驚いた。